

広報

# ただみ

3  
2019 月号  
No. 586  
平成31年3月10日



## 今月の表紙

今月の表紙は、2月9～10日に開催された「第47回只見ふるさとの雪まつり」の郷土芸能発表で「大倉八木節」を披露した大倉子供会の皆さんです。

大倉雄和会の皆さんが演奏する八木節に合わせて、花笠を手に持った子どもたちは見事な踊りを披露しました。  
(関連記事:P2～11)

## 《特集》

- 第47回只見ふるさとの雪まつり… 2～11
- 第57回町民スキー大会開催 …… 12～13
- 《News&flash》…………… 14～15
- 《町の話》…………… 16～19





第47回

# 只見



ふるさとの

# 雪まつり

只見町の冬の一大イベントである「第47回只見ふるさとの雪まつり」が2月9〜10日（8日前夜祭）にJR只見駅前広場で盛大に開催され、延べ2万7千人が来場しました。

今年、北海道胆振東部地震の復興応援をテーマに開催し、大雪像には「赤れんが庁舎」の愛称で知られる北海道庁旧本庁舎（札幌市）を制作しました。高さ約13m、幅約20mの幻想的な大雪像は、訪れた人々を魅了しました。

今回の雪まつりでは復興を応援するため、会場内で北海道の物産が販売され、人気を集め

ました。その物産コーナーでは、北海道のラーメンやスープカレー、いかめし、燻製ホタテ、日高昆布などが並び、同時に募金活動も行われました。同コーナーには地震の被害や復興状況などを紹介する写真も展示され、多くの人々が観覧しました。

ステージでは、ものまね芸人「ホリ」や「あばれる君」、「クールポコ。」のお笑いライブや町民の方々による多彩な催しが披露され、雪まつりを盛り上げました。

本号では、当日の模様を写真を中心に紹介します。



10



11



12





2



4



3



5

〈写真説明〉 1.力強い演奏を披露した天領只見仙嶽太鼓 2.会場を盛り上げた雪中大神輿 3.ものまね芸人ホリと一緒に写る来場者の皆さん  
4.多くの観衆が詰めかけた会場 5.福島県出身の芸人あばれる君  
6,7.アントワネット、クールポコ。のお笑いライブステージ 8.宏菜さんのライブステージ 9.人気を集めた北海道物産コーナー 10,11.雪まつりに携わる長年の功労を称え、菅家町長から感謝状を受け取る只見環境リサイクル(株)代表取締役の菊地政雄さんと電源開発(株)田子倉電力所の富永博所長  
12.開会式来賓参加者による福餅まき



6



7



8



9





<写真説明> 1. 厄払いの儀でお祓いを受ける厄男衆代表者 2. 巫女の衣装に身を包む雪むすめの佐藤絢佳さん(右)と齊藤咲子さん(左) 3. 手前から袴姿の渡部正敬さん(小川)、馬場充さん(蒲生)、荒井憲行さん(布沢) 4. 松明を手にふんどし姿で会場へ入場する厄男衆 5. かがり火に点火する厄男衆 6. ステージ上の厄男衆 7. 厄男衆による福餅まき 8. 厄男衆が点火したおんべの火で餅を焼く来場者の皆さん



## 厄男36名 厄払いの儀

只見ふるさとの雪まつりでは毎年、数え年42歳の厄年を迎える厄男衆による「厄払いの儀」が執り行われています。

この儀式は平成元年の第17回雪まつりから始まったと言われ、今回で30回目を数えます。今年も町内在住者や只見町出身者など36名の厄男衆が参加しました。

夕刻の時分、厄男衆の代表者が紋付袴姿で登場し、大勢の観衆が見守る中、大雪像ステージ上で神事が執り行われました。今年も各地区の代表者3名がお祓いを受けました。神事が終わると、天領只見仙嶽太鼓の力強い演奏とともに、入場門からはふんどし姿の厄男衆33名が松明片手に一斉に登場しました。厄男衆は、場内のかがり火4ヶ所に点火





5



4



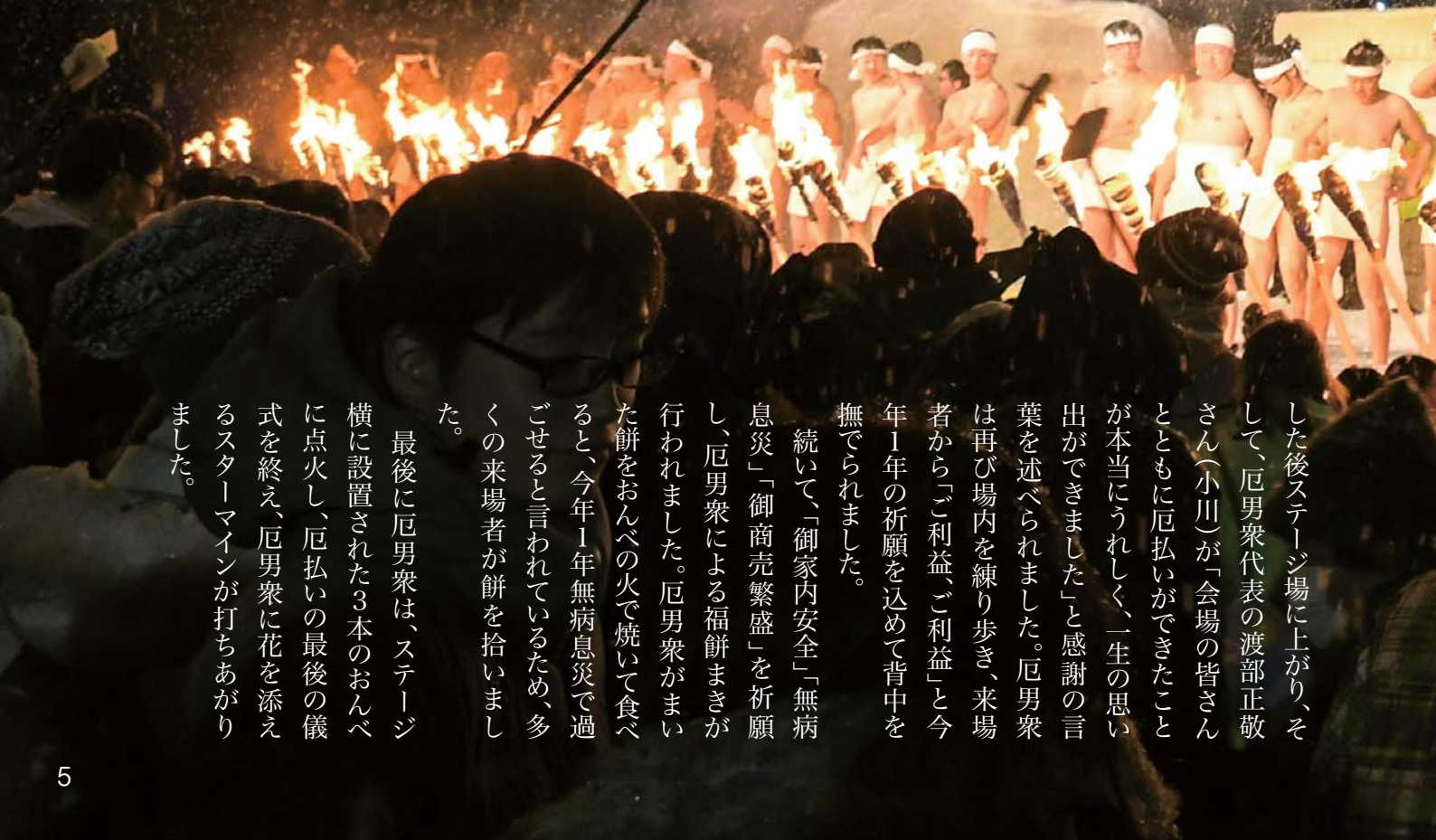
6



8



7



した後ステージ場上がり、そして、厄男衆代表の渡部正敬さん（小川）が「会場の皆さんとともに厄払いができたことが本当にうれしく、一生の思い出ができました」と感謝の言葉を述べられました。厄男衆は再び場内を練り歩き、来場者から「ご利益、ご利益」と今年1年の祈願を込めて背中を撫でられました。

続いて、「御家内安全」「無病息災」「御商売繁盛」を祈願し、厄男衆による福餅まきが行われました。厄男衆がまいた餅をおんべの火で焼いて食べると、今年1年無病息災で過ごせると言われているため、多くの来場者が餅を拾いました。

最後に厄男衆は、ステージ横に設置された3本のおんべに点火し、厄払いの最後の儀式を終え、厄男衆に花を添えるスターマインが打ちあがりしました。





1



7



6



10



9



8

## 多彩な催し披露



16



15

1.子どもたちが舞った大倉八木節 2,3.高校生アコースティックライブで澄んだ歌声を披露した大竹涼華さん(上)と渡部美依さん(下) 4. 仮面ライダージオウと握手する子どもたち 5.華麗な踊りを披露した只見つくし会の皆さん 6.華やかな花輪踊りを披露した蒲生花輪踊り保存会の皆さん 7.ステージイベントの幕開けを飾った梁取太々神楽の皆さん 8,9.カラオケ大会を盛り上げた町民の皆さん 10.平成音頭を披露した只見三つ葉会の皆さん 11.今年も来場者を魅了したGABEZのお二人 12,13.会場を盛り上げた小林早乙女保存会の皆さん 14.前夜祭から雪まつりを盛り上げたあつけらかんのお二人 15.きずな橋の曲に合わせて披露した朝日ひよっとこクラブの渡部源一さん 16.群青など3曲を披露したフルールの皆さん







# 2日間の来場者数 延べ2万7千人

# 賑 わ つ た

## 賑わうゆきんこ市 柏市・三条市と深める絆

1. そり滑りを楽しむ子どもたち
2. 長靴飛ばしゲームを楽しむ参加者
3. 雪の滑り台で遊ぶ子どもたち
4. 千葉県柏市産の野菜を販売する「ふるさと交流都市・柏市」の皆さん
5. 新潟県三条市の名物・三条カレーラーメンを販売する三条市の皆さん
6. かまくら内に設置されたバーで様々なウィスキーを提供するヤマザキショップ松屋酒店の吉津年浩さん（後日、売上金10万5百円をJR只見線の利活用に寄付されました）
7. 人気を集めたただみ農家の嫁倶楽部の「只見トマ豚鍋」
8. 花泉、会津、花春の日本酒と米焼酎ねっかが味わえる利き酒コーナーで来場者に振舞う雪むすめ
9. 厄男衆のお札を販売する同級生の皆さん
10. 神輿を楽しむ外国人観光客
11. FTVサタふく生中継コーナー「浜ちゃんぽ」に浜中順子アナウンサーと一緒に出演する雪むすめ
12. プナリんと謎の恐竜と只見っ子
13. ストラックアウトに挑戦する参加者
14. 南会津地方振興局が主催する新潟県との交流事業「只見線雪まつり満喫ツアー」参加者の皆さん

# 会 場



11



12



13



14









## 雪まつりを彩った雪像・花火

1. 雪まつりを楽しむ子どもの笑顔      2. 雪まつり開会式で表彰された電源開発㈱の関係者によって制作された見事な雪まつり入場門      3. 優しい灯りで来場者を迎えるスノーキャンドル      4. 只見小学校児童の皆さんが描いたスノーキャンドル      5. 北海道夕張市のキャラクター「メロン熊」の雪像      6. 会場内に設置された子どもたちの作品「火の用心」      7. 雪まつりのサブ会場・只見振興センターで開かれた只見音研歌謡ショー。只見スキー場ではスノーモービル体験が行われた      8. 雪まつりの関連イベントとして2月4～28日まで冬の郷湯ら里で開催された黒谷出身・原田貢さんの作品展      9. 両日、雪まつりのフィナーレを飾った祈願花火大会







# 第57回 町民



▲アルペン大回転・中学男子の部で優勝を飾った只見中3年の新國太陽選手



▲スノーボード大回転で優勝した只見小3年の矢沢博哉選手



▲小学女子6年の部で優勝した明和小の飯塚妃選手



▲お父さんの補助を受けながら最年少で大会に出場した齋藤光希選手

# スキー大会 開催

2月17日、只見町や教育委員会、町体育協会が主催する「第57回只見町民スキー大会」が只見スキー場で盛大に開催され、町内の保育所児童から大人まで約120名の選手が参加しました。

開会式では、町体育協会の馬場祐二副会長が大会宣言を行い、菅家町長が「これまでの練習の成果を發揮できるように頑張ってください」とあいさつしました。

アルペン競技では、最年少3歳児の出場や親子での参加など各部門で盛り上がりを見せました。また、クロスカントリー競技では、個人・リレー競技が行われ、多くの保護者の方々や各学校の先生が声援を送る中、熱戦が繰り広げられました。

今大会の結果は、次のとおりとなります。

― 大会上位の結果（敬称略） ―

【天回転未就学児の部】

▽参加者名（順不同） Ⅱ三瓶成翔（只見・6歳）、渡部美礼（大倉・6歳）、齋藤光希（小林・3歳）、岩佐朱乃（黒谷・5歳）、三瓶結妃（大倉・6歳）、渡部結羽（只見・5歳）、増田琉気（只見・6歳）、本名心陽（黒谷・5歳）、菅家沙月（只見・4歳）

【アルペン大回転】

▽小学女子1年の部 Ⅰ矢沢茜音（只見小） Ⅱ三瓶れん（朝日小） Ⅲ齋藤ひまり（只見小）  
▽小学男子1年の部 Ⅰ齋藤仁（朝日小） Ⅱ渡部永遠（只見小） Ⅲ藤田歩夢（只見小）  
▽小学女子2年の部 Ⅰ角田杏（明和小） Ⅱ小学男子2年の部 Ⅰ齋藤充希（明和小） Ⅱ五十嵐千紘（只見小） Ⅲ目黒佑乃心（明和小）  
▽小学女子3年の部 Ⅰ齋藤寧々（朝日小） Ⅱ山内悠愛（明和小） Ⅲ星柚子葉（明和小）  
▽小学男子3年の部 Ⅰ岩佐滯乃（朝日小） Ⅱ目黒純乃介（明和小） Ⅲ山内丈大（明和小）  
▽小学女子4年の部 Ⅰ齋藤有希（明和小） Ⅱ目黒夏穂（只見小） Ⅲ三瓶つかさ（朝日小）  
▽小学男子4年の部 Ⅰ五十嵐蓮（朝日小） Ⅱ五十嵐悠陽（只見小） Ⅲ船木翔空（朝日小）  
▽小学女子5年の部 Ⅰ吉津知巴（朝日小） Ⅱ佐藤優妃（朝日小）  
▽小学男子5年の部 Ⅰ矢沢亮太（只見小） Ⅱ





▲1位で上り坂を登る明和小Aチーム1走の山内ひかり選手



▲雪が降りしきる中、中学男子と中学女子クロスカントリーリレー競技を一齐にスタートした只見中1年の鈴木詠大選手(左)と同中学3年の馬場菊選手(右)



▲スタートの混戦をトップスピードで抜け出す明和小Aチーム1走の酒井駿選手



▲最後のの上り坂で力走を見せる只見中男子Aチーム4走の山内友斗選手



▲スピードに乗って下り坂を滑る只見中女子Aチーム2走の星佑奈選手

◆「クロスカントリー」  
 ◆個人・クラシカル  
 ▼小学女子5年の部 ①矢沢実優(明和小) ▼小学男子5年の部 ①菅家岳人(朝日小) ②青山成希(只見小) ▼小学男子6年の部 ①目黒琳太郎(明和小) ②五十嵐零生(只見小) ▼中学女子の部 ①星佑奈(只中3年) ▼中学男子の部 ①五十嵐涼凱(只中3年)  
 ◆個人・フリー  
 ▼小学女子4年の部 ①松永紗弥(只見小) ②齋藤楓(只見小) ③新國優月(只見小) ▼小学男子4年の部 ①馬場日向

大竹蓮斗(明和小) ③菊地桐伍(明和小) ▼小学女子6年の部 ①飯塚妃(明和小) ②佐藤未徠(只見小) ▼小学男子6年の部 ①目黒咲翔(朝日小) ②堀金康太(朝日小) ③舟木悠真(明和小) ▼中学女子の部 ①鈴木莉子(只中1年) ▼中学男子の部 ①新國太陽(只中3年) ②鈴木涼(只中3年) ③羽染宗都(只中3年) ▼一般女子1部の部 ①吉津知子(黒谷) ▼一般男子1部の部 ①目黒英樹(黒谷) ②岩佐俊祐(黒谷) ③目黒秀成(黒谷) ▼一般男子2部の部 ①目黒光成(梁取) ②五十嵐利明(塩ノ岐) ③大桃豊(小林)  
 ◆「スノーボード大回転」  
 ▼小学生男子の部 ①矢沢博哉(只見小) 3年)

◆「リレー競技」  
 ▼小学女子の部 ①明和小Aチーム(山内ひかり・矢沢実優・大東咲来・梁取ななこ) ②朝日小Aチーム(吉津知巴・齋藤有紗・梁取瑠奈・岩佐乃杏) ③明和小Bチーム(飯塚妃・橋川彩希・齋藤有希・山内柚妃) ▼小学男子の部 ①明和小Aチーム(酒井駿・目黒琳太郎・横山敬都・酒井湧司) ②明和小Bチーム(舟木悠真・菅野陽翔・大竹蓮斗・平野奏汰) ③只見小Aチーム(五十嵐零生・渡部有希人・新國蒼空・鈴木音緒) ▼中学女子の部 ①只見中女子Aチーム(馬場菊・星佑奈・三瓶日麻莉) ▼中学男子の部 ①只見中男子Aチーム(鈴木詠大・渡部恰央・山内大暉・山内友斗)

(明和小) ②五十嵐創生(只見小) ③増田楽(只見小) ▼小学女子5年の部 ①大東咲来(明和小) ②酒井麗(只見小) ③目黒真由(只見小) ▼小学男子5年の部 ①横山敬都(明和小) ②酒井湧司(明和小) ③目黒翔太(只見小) ▼小学女子6年の部 ①岩佐乃杏(朝日小) ②山内ひかり(明和小) ③松永佳音(只見小) ▼小学男子6年の部 ①酒井駿(明和小) ②渡部有希人(只見小) ③鈴木音緒(只見小) ▼中学女子の部 ①三瓶日麻莉(只中3年) ▼中学男子の部 ①山内大暉(只中2年) ②山内友斗(只中2年) ③鈴木詠大(只中1年)



## 南会津4町村が協定を結ぶ！

南会津地方における教育旅行の誘致促進と受入体制の充実を図るために、只見、南会津、下郷、檜枝岐の4町村は2月6日、「南会津地方の教育旅行に関する協定」を南会津町の南会津地方広域行政センターで締結しました。



▲協定書に署名した(右から)星下郷町長、大宅南会津町長、菅家町長、星檜枝岐村長と立ち会った金子南会津地方振興局長

この協定は、南会津地方4町村が

県の支援を受け、修学旅行や林間学校などの教育旅行を推進することを目的にしているもので、教育旅行の誘致強化、農家民泊など宿泊施設の広域連携による受入人数の拡大、相談窓口の運営体制の強化、財政負担などで連携・協力するものです。更に、檜枝岐村の尾瀬や只見町のユネスコエコパークのブナ林、下郷町の大内宿といった郡内各所にある自然、歴史、文化の体験なども幅広くコースに組み込むことで、より学校のニーズにあった提案が可能となります。2025年度には入込数を東日本大震災発生前の1.5倍にあたる12万3千人とすることを目指します。

協定締結式では、菅家町長をはじめ郡内の4町村長が出席し、金子隆司県南会津地方振興局長が同席。代表の大宅宗吉南会津町長が「この地方が有する豊かな自然、歴史、文化を活かし、交通費や宿泊費などを軽減し、多くの学校から選ばれるよう強固な連携体制をつくる」と述べ、4町村長それぞれ協定書に署名しました。

## 町内3小学校の児童がESD海洋教育の成果を報告

1月28日、「海洋教育」に取り組む町内3小学校のESD海洋教育成果報告会が季の郷湯ら里で開催されました。これは、町内3小学校が海洋教育のパイオニアスクールとして1年間実践してきた学習成果を町民の方々に報告するもので、各校を代表し6年生が発表しました。町内の小中学校では、3地区の地域性を活かしたESD(持続可能な開発のための教育)を実践しており、平成29年1月には東京大学海洋ア



▲町づくりへの提言や学習の成果を発表する児童の皆さん

ライアンスと只見町が協定を結び、只見と海の結びつきというグローバルな視点で学習しています。また、只見町では町内全ての小中学校がユネスコスクールに認定されています。

開会式では、渡部教育長が「発表を聞き各校の海洋教育に理解を深めていただきたい」とあいさつし、主催者を代表し吉野徹只見小学校長が「報告会を通し、町づくりを担う人材育成に寄与するESDをさらに深めたい」と述べました。報告会では、各校3つの班に分かれ、雪や自然環境の活用、海と山の幸を素材とした郷土料理、八十里越などに関する9つのテーマで発表しました。児童から町づくりに関する提案もあり、参加者は熱心に耳を傾けていました。報告会後は、同大学の及川幸彦主幹研究員が、只見など山間地の海洋教育の可能性について講演しました。

また、児童たちは2月9日に東京大学で行われた「第6回全国海洋サミット」にも参加し、全国の参加者の前で堂々と発表することができました。



## 河井継之助を想い制作

## 只見町に河井継之助のCDを寄贈

2月1日、只見字原在住の吉田六郎さん、会津美里町在住の馬場啓介さん、会津若松市在住の内城直さんが役場を訪れ、3名が作られた楽曲「河井継之助（もうひとり龍馬）」のCDを只見町に寄贈されました。

この楽曲は、吉田さんが子どもの頃、祖父から聞いた継之助のことを想いながら作詞したもので、馬場さんが作曲し、日本歌手協会会員の内城さんが唄っています。

寄贈では、1月29日に完成したばかりのCDを菅家町長に手渡され、菅家町長は「河井継之助記念館で曲を披露させていただきます」と感謝の言葉を述べました。



▲菅家町長にCDを手渡す吉田さん(左から2人目)、馬場さん(左)、内城さん(右)

## 地域に即した輸送サービスを考える

## 只見町地域公共交通会議を実施

2月5日、地域の移動手段を考える「地域公共交通会議」が只見振興センターで開かれ、国・県・町の関係者や運行事業者、地域住民など官民あわせ約20名が出席しました。この会議は、地域の実情に即した輸送サービスの実現を目的としており、新たな定期路線バスの運行形態や現在運行している雪んこタクシー、福祉乗合いききバスの運賃などについて協議しました。

協議の結果、4月から観光ツアーバスを廃止し、新たにJR只見駅から会津田島駅間の定期路線バスの運行と雪んこタクシー、福祉乗合いききバスの料金の改定などについて合意がなされました。



▲様々な立場の方々が出席し、町の公共交通について議論した地域公共交通会議

## 只見町が交通事故死者ゼロ日達成

## 町交通安全対策協議会に表彰伝達

2月16日、只見町が交通事故死者ゼロ千日を達成し、その表彰伝達式が役場で行われました。

只見町では、平成28年5月21日のオートバイ転倒事故を最後に交通死亡事故は発生しておらず、16日午前0時に達成しました。

伝達式では、交通安全運動を推進する町内外の団体の方々と同席する中、南会津地方交通対策協議会長の金子隆司、南会津地方振興局長が町交通安全対策協議会長の菅家町長に表彰状を手渡しました。表彰を受けた菅家町長は「交通事故死者ゼロが1日でも長く続くよう、今後も事故防止活動に取り組みたい」と謝辞を述べました。



▲金子局長(左から4人目)から表彰状を受けた菅家町長(同5人目)と同席した皆さん

## 柏市民の方々に只見町をPR

## 「只見ユネスコエコパーク展」開催

2月24日から3月2日までの期間、ふるさと交流都市・千葉県柏市にあるパレット柏において「只見ユネスコエコパーク展」が行われました。これは、柏市民の方々に只見ユネスコエコパークを広く認知してもらうことを目的としており、只見ファンの増加を目指すものです。企画展では「豪雪に育まれた自然と生活・文化を守り、活かす」をテーマに、只見町を紹介した解説パネル20枚と町の認定ブランド商品「自然首都・只見 伝承産品」約30品などが設置されました。来場者の方々は、只見ユネスコエコパークへの理解を深めていきました。



▲解説パネルや伝承産品を観覧する来場者の皆さん



## 2つの災害とじゅうねん石けんが結んだ絆

# 熊本と只見の交流深めた「石けんづくり教室」

2月14日、只見農産加工企業組合「げんき村」のじゅうねん(えごま)石けん「NICOBABY(ニコベビー)」を開発・製造する熊本県のLadybug(レディバグ)オーナー・豊田希さんの「石けんづくり教室」が只見振興センターで開催され、町内外から22名が参加し、くまもと県民テレビや福島中央テレビも取材に訪れました。

げんき村では、販売できずに捨てていたえごま油を石けんに活用できないか模索していたところ「レディバグ」のウェブサイトを見つけ、げんき村従業員の齋藤幹子さんが、新潟・福島集中豪雨で熊本から復旧支援をいただいたことや只見の雪まつりで熊本復興応援をテーマに「熊本城」の大雪像をつくったことなどをつづり、互いに復興につながる石けんをつくりたいという想いをメールで伝えました。レディバグは熊本県阿蘇郡高森町で石けんの製造・販売を手掛けており、体に優しい石けんを作ることで熊本県内外でも高い評価を得ています。今回、齋藤さんからのメールに心を揺さぶられた

豊田さんは、げんき村とコラボしたじゅうねん石けんをつくるようになりました。このじゅうねん石けんは、只見の春をイメージしたピンク色をベースにえごまの色で雪食地形をイメージした模様をつけています。石けんは、赤ちゃんにも使える意味と災害を乗り越えて笑顔になれる意味を込めて「ニコベビー」と名付けられ、今年2月にデビューし、雪まつり会場で販売されました。

教室では、「ニコベビー」が誕生した絆などが紹介され、熊本と只見の縁を感じながらじゅうねん石けんづくりが行われました。参加者からは「この縁に加えてもらいうれしかった」などの声が聞かれ、齋藤さんは「熊本と只見がつながったと感じた」と話し、豊田さんも「今後も関係を築いていきたい」と述べられ、熊本と只見で発生した災害とじゅうねん石けんを通して、新たな交流が生まれました。



▲開催した豊田さん(2列左から4人目)と齋藤さん(同5人目)、教室に参加した皆さんと取材されたFCTの直川貴博アナウンサー(右)



▲FCTゴジてれchuの番組でも紹介された「石けんづくり教室」



▲現在げんき村で購入することができるじゅうねん石けん「ニコベビー」



あやの  
吉津 彩乃さん  
(長浜)



いお  
横山 依央くん  
(小林)



こたろう  
角田 虎太郎くん  
(大倉)



そうすけ  
馬場 蒼介くん  
(福井)

虫歯の  
ない子



(1月29日)  
(3歳児検診)



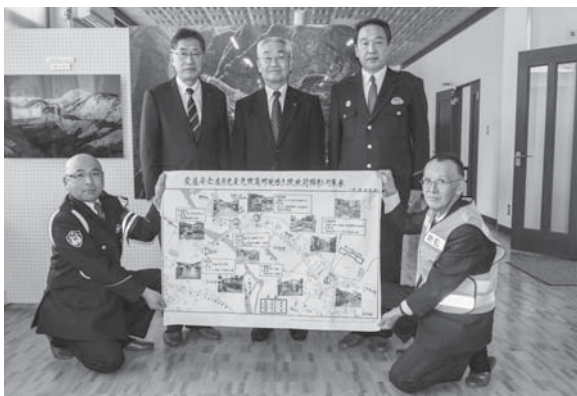
## 只見町教育委員会教育委員の辞令交付式 十島の菅家貞子さんが就任

2月1日、只見町教育委員会教育委員の辞令交付式が役場で行われ、十島の菅家貞子さんが就任されました。教育委員は、町の教育振興のため教育政策の提案や町民の教育への意見、ニーズを教育行政へ反映させる役割を担っています。辞令交付式では、菅家町長から菅家さんへ辞令書が手渡され、今後の活動をお願いしました。菅家さんの任期は、2月1日から4年間となります。



▲辞令書を手にする菅家貞子さん(右から2人目)と菅家町長、橋本副町長、渡部教育長

## 県警本部「交通安全コンクール」で表彰 小林明老会が「交通企画課長賞」



▲菅家町長(中央)に報告した角田会長(下段右)と同席した県や県警関係者の皆さん

2月18日、福島県警本部の「わが町の交通安全マップコンクール」で交通企画課長賞に選ばれた小林明老会の角田睦会長が役場を訪れ、菅家町長に受賞報告しました。このコンクールは、交通安全意識を高め、危険箇所の安全対策に活用することを目的としているもので、明和小学校児童の見守り活動に取り組む小林明老会が通学路を中心に危険箇所などをまとめたマップを作成しました。作成には小林明老会をはじめ、防犯協会や交通安全母の会、南会津警察署、県山口土木事務所などの約20名が協力し、大倉・小林集落内の通学路を調査しました。調査結果を角田会長が地図に落とし込みマップを作成。危険箇所には対策案を掲載し、国道を管理する山口土木事務所が一部対応しました。報告では、角田会長が菅家町長にマップを紹介し、菅家町長がその栄誉を称えました。

## アウトドアプランナーとして町の魅力を発信 人材育成第9期生の「閉講式」を開催

2月27日、人材育成第9期生の閉講式が只見振興センターで開かれ、関係者が出席しました。9期生11名は「アウトドアプランナーの育成」をテーマに、町の地域資源やイベント企画の基礎知識など学び、最終的にはアウトドアプランの企画立案を行いました。閉講式では、菅家町長から受講生に修了証が手渡され、受講生からは「アウトドアプランナーとして町の魅力を発信していきたい」などの目標が伝えられました。また、最終講座では成果報告が行われ、9期生の講師を務められた新潟県三条市の(株)スノーピーク西野将氏の前で、雪や田子倉湖など町の自然を活用した様々なプランを自身が制作したチラシとともに紹介し、アウトドアプランナーとしての第一歩を踏み出しました。



▲2年間アウトドアプランナーの知識と技術を学んだ9期生の皆さんと今後の活躍を期待する菅家町長、渡部教育長



落語の魅力と笑いを伝える

## 立川こしら師匠「真冬の落語会」開催

2月23日、立川流真打・立川こしら師匠の「真冬の落語会スペシャル」がこみと屋（館ノ川）で開かれ、約30名が来場しました。これは、旅館みな川の星恭子さんなど地域住民でつくる「ミナカワPLUSONE」が主催したもので、師匠の落語は今年で3回目となります。今回は、来場者からの演目リクエストに応える形で行われ、「替わり目」「火焰太鼓<sup>かえんだいこ</sup>」から「芝浜」といった人情噺まで全7演目を披露し、会場は大きな笑いに包まれました。只見開催3年目を迎えた師匠は「只見は若者主導でチャレンジしており、活気を感じます」と印象を話され、町民に落語の魅力と笑いを届けました。



▲落語の魅力と笑いを届けた立川こしら師匠



▲袴を着て大きな声で豆をまくさくら組の皆さんと横山保育所長

心の中の悪い鬼を追い払う

## 各保育所で「豆まき」を開催

2月1日、節分の行事「豆まき」が町内の各保育所で行われました。朝日保育所の豆まきでは、ホールで子どもたちが遊んでいると窓から突然鬼が登場。子どもたちは逃げ回りながらも一生懸命に豆をぶつけて鬼を退治しました。続いて、さくら組の男の子4名は「寝坊鬼」や「泣き虫鬼」など心の中の鬼を退治したいと話し、袴を身にまとい保育所内の各部屋を「鬼は外～！福は内～！」と大きな声で豆をまきました。また、只見町昔ばなしの会の渡部悦子さんと菅家ツヤさんが昔ばなしを披露し、節分や豆まきの由来などを紹介し、みんなで節分を楽しみました。

只見町ブナセンター

## 外来生物について学ぶブナセンター講座を開催

2月17日、只見町野生動植物保護監視員の講習会を兼ねたブナセンター講座「外来生物をどう防ぐかー外来種問題を知るところから始めよう！」が朝日振興センターで開かれました。国立環境研究所の池上真木彦氏を講師に迎えた講座では、外来生物による地域本来の生態系の変化や人間の安全・健康を損なう危険性などの影響と問題、最前線の防除方法について国内外の具体例をあげながら説明されました。参加者は動植物や自然環境を大切にすること、問題の原因となる外来生物を持ち込まないことを第一に、外来生物の侵入監視のために自然環境に目を配ることが大切であることなどを学びました。



▲参加者の質問に答える池上氏



## 各地区の民芸品保存会の方々が伝統工芸の魅力を伝える 町内3小学校で「つる細工教室」開催

只見町の伝統工芸を学ぶ「つる細工教室」が町内3小学校で開かれました。これは、伝統工芸を後世に伝えるために学ぶ機会を授業に取り入れて実施しているもので、2月19日に明和小、2月20日に只見小、2月22日朝日小の日程で行われました。

各地区の民芸品保存会の方々が指導したつる細工教室では、児童たちが藤ツルを使って上手にざるやかごなどを製作しました。つる細工を体験した児童からは「難しかったけどとても楽しかった」との声が聞かれました。



▲民芸品保存会の方々からつる細工を学ぶ児童の皆さん



▲中華料理の魅力を伝えた講師の酒井さん(中央)と本場の中華料理を学んだ参加者の皆さん

## 本場の中華料理を学ぶ 「中華料理講座」を開催

2月23日、只見振興センターで「中華料理講座」が開かれ、地域住民11名が参加しました。講師に黒沢の酒井今日子さんを迎え、「焼き中華まん」「大根のだんご」「野菜スープ」を作りました。

「焼き中華まん」は生地から手作りし、あんは肉と冬野菜を混ぜ合わせ生地で包み、こんがり焼きあげました。また、「大根のだんご」は中国の正月「春節」でも食べられる正月料理の一つで、大根のみじん切りに豆腐やエビなどを一緒に混ぜてだんごを作りました。完成後は全員で試食し、中華料理の味を堪能していました。

## 只見高校野球部OBの渡部仁さん 野球部に野球用具を寄贈!

2月26日、只見高校野球部OBの渡部仁さん(楯戸)が同校を訪れ、野球部に金属バット2本とボール2ダースを寄贈しました。渡部さんは同校野球部出身で、3年生時に春の県大会に初出場。同大会では小高工と対戦し、同点ホームランを放つなど投打に活躍されましたが残念ながら延長16回2-1で惜しくも敗退となりました。3年前に只見に戻られ、現在は町内の(株)美馬生コンに勤務されています。今でも野球部の練習や試合を観戦し、当時に重ねながら応援されています。そんな経緯から平成29年から3年連続で野球部に用具を寄贈するなどの応援活動を行っています。野球用具を手渡された主将の渡部倫さんは「甲子園を目指し頑張ります」とお礼を述べ、渡部さんは「OBとしてこれからも応援していきたい」と話し、長谷川清之監督は「学校や保護者の負担が大きい中、OBからのバックアップは非常に心強い」と感謝の言葉を述べました。



▲野球部に用具を寄贈する渡部さん(左)と受け取る渡部主将(右)と野球部員の皆さん



## 2月から新しい看護師さんが着任しました!

2月1日から4ヶ月間、朝日診療所で勤務していただく会津中央病院看護師の川崎芽依さんです。中央病院では約2年間、救急医療の現場に携わり、朝日診療所へやってきました。朝日診療所は患者さんとの距離が近く、いつも声をかけてもらっているそうです。距離が近い分、深く患者さんの状況を把握できるところが良いところと感じています。外来の業務は初めてですが、患者さんの状態の変化に気づける看護師を目標に日々励んでいます。「4ヶ月の間に方言を理解し、皆さんとの距離を縮めたいです」と話す川崎さんをどうぞよろしくお願いします。



かわさき めい  
川崎 芽依さん  
(出身/会津若松市)

## 広報ただみ診療所

朝日診療所

医師 鷗山 保典



### 「コーヒーやカフェインについて」

こんにちは、診療所の鷗山です。皆さんコーヒーは好きですか?自分はコーヒーが好きで、毎日コップ2杯以上飲んでます。そこで今回はコーヒー、カフェインにまつわるお話しを少しさせていただきます。

コーヒーを毎朝欠かさず飲んでいただけ、ふと飲み忘れた日の午後、頭痛がしてくる…そんな経験をされた方はいますか?実は、その頭痛には「カフェイン離脱頭痛」という病名がしっかりとついているのです。正確な定義だと「2週間以上、毎日200mg以上のカフェインを摂っている人が、カフェインを摂らなくなって24時間以内に発症する頭痛」とされています。特徴としては、100mgのカフェイン摂取により1時間以内に改善することが知られています。カフェイン200mg、100mgと言われてもなかなかピンとこないですが、だいたい100mgはコーヒーカップ1杯くらいなので、毎日コーヒー2杯以上飲む人は要注意ということです。もちろん、自分も注意しています。

「コーヒーなんて飲まないわ」って人も気をつけてください。緑茶などのお茶にもカフェインは含まれているのです。湯呑み3杯くらいでカフェイン100mg程度になります。あくまでも頭痛の原因の1つにカフェインが関与しているということですが、他の原因で頭痛が起きている可能性もあるので、少しでも気になることがあれば遠慮なく診療所を受診してください。

これだけ聞くと、「コーヒー怖いじゃないか、飲むのやめよう」とマイナスイメージになってしまうので、良い面も少し紹介します。皆さん「痛風」はご存知ですか?風が吹いただけでも痛いと言われる、あの病気です。実は、コーヒー摂取により痛風の発症リスクが下がることが米国の研究で報告されているのです。尿酸値が高いけどお酒を止められない…、何度も痛風の発作が起きてつらい…、といった方はコーヒーを試してはいかがでしょうか?他にもコーヒー、カフェインにまつわる話がありますが、紙面に限りがあるので、このへんで終わりになります。詳しい話を聞きたい方は診療所でお気軽に質問、相談してくださいね。

## 地域おこし協力隊として 只見町観光振興協力隊

vol.52

やましな まい  
山科 麻伊



### 「心の交流ができる只見町」

町民の皆さま、いつもご協力を頂き、また、お声を掛けて下さり誠にありがとうございます。私は今、外国人観光客受け入れのための活動を続けておりますが、少し面白いなと思ったことがあります。外国人は只見の自然的景観だけではなく「オンベ」「メケイ八日」「早乙女踊り」「山入り」等々、伝統文化・風習に関心を持つ人が多いということです。彼らは「なぜそういったものが伝統として残ってきたのか、とてもミステリアスで興味深い」というように言います。先人たちが「神事」として続けてきた行事や芸能は日本神道の息

づく、日本人にとっては理解できるものですが、西洋のキリスト教文化圏をはじめ、宗教や文化背景の違う国から見るととても不思議で、新鮮に見えるのだなと驚きました。只見はそういった文化や思想の違いを乗り越え、温かい「心の交流」ができる方が多いと感じます。例えば、知らない人にも「おはよう」「こんにちは」と声をかけられるような心。そういった目に見えない精神的価値は、今、世界の観光業界でも見直されている価値のひとつです。「只見は自然もあるけれど、人があったかいですよ!」と、もっと外に伝えていきたいと思えます。



# 町史

とっておきの話

296

国立科学博物館  
分子生物多様性研究資料センター

よしかわ なつひこ  
吉川 夏彦

## カエルとサンショウウオの楽園・ただみ⑤

### 只見町のカエル②

只見町のカエル類で馴染みがある種類はやはりニホンアマガエルやトノサマガエルなど、水田や人家の周辺で見かけることが多い種類ですが、町内には他にもさまざまなカエルの仲間が生息しています。

アズマヒキガエルは町内では「ますびつき」とも呼ばれますが、マガエルという呼び名でもよく知られた比較的大型のカエルです。四



▲5月の雪解け後の水たまりに産卵のため集まり「カエル合戦」をするアズマヒキガエル(布沢)



▲沢沿いの林床でよく見つかるタゴガエル(入叶津)

月から五月の繁殖期には人家の池や山中の湿地などにたくさん個体が集合して産卵する「カエル合戦」が見られ、特徴的な長いひも状の卵塊を産みます。かつてはよく見られたカエル合戦ですが、近年はそのような光景が見られる場所は少なくなってきたようです。本種は天敵に出会うと「ガマの油」としても知られる毒成分を

含んだ白い粘液を皮膚から分泌します。この粘液はとくに耳の後ろにある耳腺じぶせんという膨らみから多く分泌され、この部分を敵に向けるためにとる防御姿勢はまるで土下座をしているようにも見えます。この毒のおかげでヒキガエルの天敵は多くありませんが、町内にも生息するヤマカガシというへビはヒキガエルを捕食する天敵として知られています。

アカガエルの仲間は明るい赤茶色の体色のカエルの仲間で、背中の左右に背側線はいくせんと呼ばれる二本の線があり、その体色から只見では「あかびつき」と呼ばれます。町内にはヤマアカガエルとタゴガエルの二種類のアカガエルの仲間が生息しています。ヤマアカガエルは少し山寄りの場所に多くみられ、四月から五月ころ、田起こし前の水田の浅い水たまりや山の池、湿地などに千個以上の黒い卵が入った丸くて大きな

ゼリー状の卵塊を産みます。本種は短期間に二斉に多くの個体が集まって産卵する爆発的繁殖という繁殖戦略をとりますが、産卵は夜間に行われるためその様子を見ることは多くありません。町内では雪解けの状況に応じて産卵時期に幅があり、蒲生地区などの多雪地や標高の高い山奥の湿地では六月になつてもまだ産卵がみられる場所もあります。

ヤマアカガエルと間違われやすいのが、それよりもやや小型のタゴガエルです。山地性が強く、登山道や沢沿いを歩いているとよく出会うカエルで、人里の近くではあまり見かけません。本種は山中の湧水の石の下で産卵します。繁殖時の鳴き声はまるで犬のようで、五月から六月ころには石の下からウォンウォンウォンという鳴声がさかんに聞こえます。卵は大粒で数が少なく、二つの卵塊で七〇個程度です。その代わりに卵黄分が多く含まれており、オタマジャクシはその栄養を使うことで餌を食べずに子ガエルまで成長することができず、敵に見つかりにくい石の下に産卵し、成長するまで外に出てこない変わっ

た戦略で、タゴガエルは町内の山地環境でとても繁殖したカエルになっています。

カジカガエルは溪流とその周辺の森に生息するアオガエルの仲間です。アオガエルの仲間とはいえず、体色は周辺環境に溶け込む灰色や茶色をしており、緑色が鮮やかなモリアオガエルなどに比べると地味な見た目をしています。しかし本種の鳴き声は非常に風流で美しく、五月から七月ころに只見川や伊南川をはじめとする町内の河川でさかんに鳴いている声が聞こえます。本種の鳴き声は古くから和歌にも詠まれ、飼育して鳴き声を楽しむための河鹿籠と呼ばれる籠が作られたりした時代もありますが、町内では夏になれば飼育しなくても、夜に川辺を歩くだけで本種の鳴き声を楽しむことができます。カエル類は個体数も多く鳴き声もよく聞こえるため、音も含めた町内の景観を形作っている重要な要素の一つだと考えられます。今後も季節になるとさまざまなカエルの声聞こえる豊かな自然環境を守っていききたいものです。





# 町民文芸

## 只見短歌会

一月詠草

大塚栄一

指導

馬場 八智

大半は一日を黙して過す我れ友の電話にこころ和めり

飯島小百合

快晴に四羽の鳥が円を書き追いかけてこ飽かず見上ぐる

関谷登美子

懐かしき旧知同期の集いあり互いに近況交わし和みぬ

新国由紀子

何してる早く寝るとふ老い母に夜半に作りし料理を運ぶ

目黒 富子

かじかみし幼の両手我の手でつつめば涙の顔がほころぶ

渡部ゆき子

只見には稀なる年ぞ早くより除雪機の音聞かず夜の明く

渡部ヨリ子

年越しの蕎麦を食べ終へ孫たちは眠気半分宮参りに行く

新国 洋子

「ヨウコバア九十一サイオメデトウ」曾孫二人が紙吹雪まく

(出詠順)



## 只見俳句会

二月例会

目黒十一

指導

信

下校時の声華やぎて山笑う  
青空に突き刺す如く梅一輪

大根鍋ストーブにまかせ孫話し  
家々の正月飾りどんどの火

都

独り居の句集見入るや寒の雨  
宿題を詰め込み学校始めかな

明日を待つ妻と二人の大晦日  
風花や覚悟固める峠越え

味代子

吉児

窓に付く雪の結晶見て飽かず  
冬の朝コーヒー香る二階迄

蕎麦搔は妣の一芸しのぼるる  
初雪や越後山脈耀ける

弘子

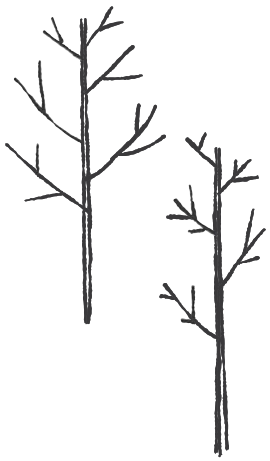
幸生

冬ごもり爺の手が生むつる細工  
冬茜うす衣を背に白き尾根

流し場の熱き露天や雪の宿  
雪割れば女日芝の青陽に嗤う

雪晴やスキップの子に先越さる  
春寒や母の齢に重ねては

礼





# 今月の お知らせ

## 電話番号

総務課	
総務係 財政係	☎82-5210
地域創生課	
創生企画係 広報広聴係	
ユネスコエコパーク推進係	☎82-5220
町民生活課	
税務係	☎82-5110
町民係	☎82-5100
保健福祉課	
保健係	☎84-7005
福祉係	☎84-7010
農林建設課	
農林係	☎82-5230
建設係	☎82-5270
観光商工課	
観光係 商工係	☎82-5240
会計室	☎82-5120
議会事務局	☎82-5300
農業委員会	☎82-5230
教育委員会	☎82-5320
学校給食センター	☎84-7180
只見保育所	☎82-2219
朝日保育所	☎84-2038
明和保育所	☎86-2249
朝日診療所	☎84-2221
(歯科)	☎84-2612
こぶし苑	☎84-2101
只見振興センター	☎82-2141
朝日振興センター	☎84-2111
明和振興センター	☎86-2111

## 募集

只見町職員(資格免許職・看護師)  
採用候補者試験を行います

平成31年度只見町職員(資格免許職・看護師)採用候補者試験を次のとおり行います。

●試験職種及び採用予定人員  
・看護師 若干名

●受験資格(学歴不問)

昭和53年4月2日以降に生まれた者で、看護師の免許を有するか平成31年3月末までに取得見込みの者

●試験の方法

高校卒程度で次により行います。  
教養試験、総合適性検査、小論文試験、面接試験

●試験の日時、会場

▽日時 3月24日(日)

午前9時受付〜午後5時予定  
※受験人数により前後します。

▽会場

只見町役場町下庁舎内  
(只見字町下2591・30)

●発表

役場掲示板に合格者番号を掲示するほか、本人に通知します。

●採用

合格者は採用候補者名簿に登録され成績順に町長が採用者を決定します(この合格の有効期間は1年間です)。

●受験手続及び受付期間

▽申込用紙の請求

申込用紙は役場総務課及び朝日、明和振興センターで交付します。

▽申込方法

申込用紙は役場総務課に提出してください(郵送の場合は返信用封筒を同封すること)

▽受付期間

3月18日まで(郵送の場合は、3月15日までの消印のあるものに限ります)。

●問合せ先

▽只見町役場総務課総務係

☎02441(82)5210

国家公務員「国税専門官採用試験(大卒程度)」のお知らせ

仙台国税局では、バイタリテイ

あふれる国税専門官を募集しています。国税専門官は、国の財政を支える重要な仕事を担い、税務署などにおいて、調査・徴収・検査や指導などを行う税務のスペシャリストです。

●受験資格

▽平成元年4月2日から平成10年4月1日生まれた者

▽平成10年4月2日以降生まれの者で次に掲げる者

①大学を卒業した者及び平成32(2020)年3月までに大学卒業見込みの者

②人事院が①に掲げる者と同等の資格があると認める者

●受験申込受付期間

3月29日(金)から4月10日(水)まで

●受験申込方法

▽受験申込みはインターネット申込みとする。

▽国家公務員試験採用情報NAVIで検索

●第1次試験日

6月9日(日)

●問合せ先

仙台国税局 人事第二課

試験研修係(内線3236)

☎022(263)1111

## お知らせ

自動車の移転(変更・抹消)は忘れずに

福島県南会津地方振興局県税部より、自動車税について次のとおりお知らせします。

●自動車税の課税について

▽自動車税は、4月1日午前0時現在の登録名義人である所有者(割賦販売などで所有権が保留されている場合は使用者)に課税されます。移転・抹消の登録がされない、もとの所有者に課税されるので、必ず運輸支局で手続きを

## 税 今月の納期

3月25日までに

納めましょう

●農集排使用料(3月分)

しましよ。3月末までに登録しないと、翌年度分の税金が課税されません。

●転居した場合について

▽自動車税の納税通知書は、運輸支局に登録されている住所(自動車検査証に記載されている住所)に送付されます。転居した場合には、必ず運輸支局で車検証の住所変更をしましよ。3月末までに手続きを行いますと、新住所に送付されます。

●車検切れの自動車について

▽車検切れの自動車でも、登録されている限り自動車税が課税されます。使用しない車は運輸支局で抹消手続きをしましよ。

●その他

▽登録に関する手続きは、運輸支局や自動車販売店、整備工場などにご確認ください。

●問合せ先

福島県南会津地方振興局県税部

☎02441(62)5212



## 明和地区の伝統芸能を継承 明和小で「伝統芸能発表会」

2月27日、明和地区に伝わる伝統芸能を子どもたちが披露する「明和小学校・伝統芸能発表会」が同校で行われ、地域住民や保護者など多くの方々が訪れました。

この発表会は、同地区に伝わる伝統芸能の継承や「只見愛の教育（ESD）」などの一環で行われているものです。今年で開催5年目となり、保存会の方々が児童たちに踊りや唄、演奏などを指導しました。

始めに、地域の防犯活動を行う小林明老会（小林明老見守り隊）の方々への感謝の会が開かれ、児童たちから「いつも見守っていただきありがとうございます」と感謝の気持ちが伝えられました。続いての発表会では、1・2年生が「大倉八木節」、3年生が「小林早乙女踊り」、4年生が「梁取神楽」をそれぞれ発表し、満員となった会場からは大きな拍手が送られました。最後に穴澤正志校長が「明和地区の大切な伝統芸能をこれからも地域と一緒に守っていきたい」と感謝の言葉を述べられました。



▲1・2年生が発表した「大倉八木節」



▲3年生が発表した「小林早乙女踊り」



▲4年生が発表した「梁取神楽」

## 町長スケジュール (2月分)

- 1日 教育委員辞令交付式
- 4日 福島県教育委員会要望(福島市)、ふるさと応援在京福島県経済人の集い(東京都)
- 5日 定例庁議、只見町地域公共交通会議
- 6日 南会津地方の教育旅行に関する協定締結式、南会津地方広域市町村圏組合管理者会、福島県土地連南会津支部総会、南会津地方土地開発公社理事会、会津高原ふるさと推進協議会理事会、南会津地方町村会総会(南会津町)
- 7日 当初予算町長査定(～8日)
- 8日 雪まつり大雪像引渡し式
- 9日 只見ふるさとの雪まつり(～10日)
- 12日 政策調整会議
- 14日 会津を拓く講演会(会津若松市)
- 15日 只見高校振興対策協議会総会
- 17日 町民スキー大会、会津かねやま雪まつり(金山町)

- 18日 政策調整会議、交通死亡事故ゼロ1000日表彰伝達式、ユネスコエコパーク連絡調整会議
- 19日 南会津地方環境衛生組合議会定例会、南会津地方広域市町村圏組合議会定例会(南会津町)
- 20日 南会津地方町村会並びに町村議会議長会合同懇談会(福島市)
- 21日 福島県町村会定期総会、福島県国民健康保険団体連合会通常総会(福島市)
- 22日 議案検討庁議、会津大学事務長来庁、朝日診療所医師との懇談会
- 24日 からむし織の里雪まつり(昭和村)
- 25日 奥会津五町村活性化協議会定例会、只見川電源流域振興計画調査・策定委員会、只見川電源流域振興協議会定期総会(柳津町)、両沼地方町村会講演会(湯川村)
- 27日 観光開発審議会、人材育成ダイヤモンドプラン第9期生閉講式
- 28日 議会2月会議、一般質問検討庁議、只見町山村教育留学生送別式



# 町民の消息

(1月26日～2月25日届出分) 敬称略

## ■お誕生おめでとうございます

橋本 紮斗 (男/走馬・淑子) 只見

## ■おくやみ申し上げます

五十嵐 光雄	75歳	蒲 生
木津 弘道	73歳	黒 谷
黒田 文枝	77歳	只見
酒井 敏幸	81歳	只見
山内 卓雄	86歳	二軒在家
矢澤 オキミ	105歳	二軒在家
渡部 長利	80歳	小 川

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

# 人のうごき

平成31年2月1日現在

人口 4, 215 (-10)  
 男 2, 069 (-4)  
 女 2, 146 (-6)  
 世帯数 1, 861 (+2)  
 高齢化率 45.95%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 9 転出 11 出生 2 死亡 10

**あとがき**

▽2月も終わり、春の訪れを少しずつ感じる季節となりました。今年は降雪が少なく、2月の後半はほとんど雪が降らないという珍しい年となりました。

▽今年も盛大に雪まつりが開催され、無事終えることができました。2日目の「お笑い芸人爆笑ライブ」では、町下運動場に設けられている大駐車場が満車になるなど会場には多くの人で溢れかえりました。

▽会場では外国人観光客の姿も見られ、ゆきんこ市や雪像などを楽しんでいました。外国人観光客の方々には「雪」「食」「文化」全てが新鮮に映っているようで、スマートフォン片手に写真撮影を楽しんでいました。

(三瓶)

生涯学習サポーター  
三瓶美由紀

朝日振興センター  
図書室 ☎84-2111

# おすすめ新着図書

## ★一切なりゆき～樹木希林のことば～



樹木希林/著(文藝春秋)

芝居の達人、人生の達人――。2018年、惜しくも世を去った名女優・樹木希林さんが、生と死、演技、男と女について語ったことばの数々を収録。それはユーモアと洞察に満ちた、樹木流生き方のエッセンスです。

## ★フーガはユーガ



伊坂幸太郎/著(実業之日本社)

常盤優我は仙台市のファミレスで一人の男に語り出す。双子の弟・風我のこと、決して幸せでなかった子供時代のこと、そして、彼ら兄弟だけの特別な「アレ」のこと。僕たちは双子で、僕たちは不運で、だけど僕たちは、手強い。2019年本屋大賞ノミネート作品です。

★朝日振興センターではリクエストを随時受付しています。読んでみたい本があれば、ぜひリクエストしてください。

1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう

## 町民憲章

1、互いに助け合い親切をつくし楽しい町をつくりましょう

1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう

1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう

1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう



## ツグミ (学名: *Turdus naumanni*)

[スズメ目 ヒタキ科]



▲雪の解けた地面に降りて食べ物を探すツグミ

▲樹上にとまるツグミ

只見の長い雪の季節が終わりを迎え地面が顔をだしはじめるこの時期、開けた草地や田畑に群れで降りている鳥を見かけることがあります。これは、ツグミです。ツグミが地面に降りているのは、土中のミミズや昆虫類、種子といった食べ物を採るためです。地面の上をピョンピョンと跳ねるように移動し、立ち止まると、胸を張るような独特の姿勢をとります。これは周囲に捕食者などがいないかを警戒しているのだと考えられています。

雪の多い只見町では、冬期は野鳥が少なくなりますが、この時期でもよく目にします。地上で採食することが多い鳥ですが、積雪期には枝先に残った果実などを食べているようです。葉の落ちた枝先にとまり、枝から飛び立つときに「キョ キョ」と特徴的な声で鳴きます。

ツグミは、夏はシベリアで繁殖し、秋になると日本や東南アジアに渡り冬を過ごします。日本では、全国的に普通に見られます。全長24cmほどで、頭から背が焦げ茶あるいは茶褐色をしており、目の上に白い線が入り、胸に黒いウロコ模様の特徴的な斑(はん)があります。ツグミは、北へ渡る時期が比較的遅いため5月中旬まで姿を見ることができます。

企画展

「只見の自然を食べる」

と き:3月21日(木・祝)~4月22日(月)

と ころ:ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

講座

「只見の自然を食べるー只見町の食文化の特徴」

講 師:平出美穂子氏(福島の食文化研究家)

と き:3月21日(木・祝)13:30~15:30

と ころ:ただみ・ブナと川のミュージアム セミナー室

詳しくは、  
只見町プラセンター  
までお問い合わせ  
ください

## 雪まつりの大雪像を活用して

### 「キャンドルナイト」開催

雪まつり開催から1週間後の2月16日、雪まつりの大雪像をキャンドルで彩る「キャンドルナイト」が開催されました。イベントでは、大雪像に多くのキャンドルが設置され、夕暮れとともにキャンドルに灯された幻想的な「赤れんが庁舎」の姿が現れ、会場では写真を収める姿などが見られました。

